

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	杉浦 仁美
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
地位格差のある集団間状況における外集団卑下の生起過程に関する検討			
論文審査担当者			
主査	教授	坂田	桐子
審査委員	教授	岩永	誠
審査委員	教授	布川	弘
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、地位格差(不平等な階層構造)のある集団間状況において、内集団バイアスが生起する過程を明らかにすることを目的としている。内集団バイアスには内集団ひいきと外集団卑下の2つの側面が含まれるが、本論文では特に外集団卑下が生じるプロセスの解明に取り組んでいる。</p> <p>本論文は7章から構成されている。第1章では、集団間葛藤研究及び内集団バイアスに関する諸理論のレビューを行い、地位格差のある集団間状況における内集団バイアスの生起を説明するためには、「個人の自己高揚動機の充足を目指した社会的アイデンティティの戦略的利用」という観点を導入すると共に、所属集団の地位（集団間地位）だけでなく集団内における個人の地位（集団内地位）の影響も考慮する必要性があることを述べた。第2章では、第1章の議論に基づき、高地位集団では個人間比較により脅威を受ける低地位者の方が高地位者よりも内集団バイアスを示すのに対し、低地位集団では集団高揚への動機づけの高い高地位者の方が低地位者よりも内集団バイアスを示すという予測を提示した。集団を大学、実験集団、及び国とした3つの実証研究を行い、それらの効果を統合したメタ分析によって、内集団バイアスの中でも特に外集団卑下において予測が支持されることを明らかにした。</p> <p>第3章では、第2章の結果に基づき、集団間・集団内の地位環境が内集団ひいきではなく外集団卑下を生起させるプロセスについて、社会的支配理論における正当化過程の観点を加えて基本仮説を提唱した。具体的には、集団間・集団内の地位環境により特定の動機が生起し、この動機が階層拡大または階層縮小の正当化イデオロギーの採用を促すことによって、外集団卑下が正当化され、評価・行動次元に表れるというものである。第4章では、大学生を対象として集団間地位と集団内地位を操作した実験を行い、外集団卑下に及ぼす集団間地位と集団内地位の交互作用効果が集団間比較に基づくものであることを実証した。第5章では、集団間地位を操作した実験によって、高地位集団の低地位者が集団間階層の維持・拡大を望む「集団支配志向性」を高める一方、低地位集団の高地位者は集団間階層の縮小を望む「平等主義志向性」を高めることを明らかにした。第6章では、実験室実験によって、外集団攻撃に対する正当化イデオロギーの効果を検討した。実験参加者を高地位集団の低地位者条件、または低地位集団</p>			

の高地位者条件のいずれかに割り当て、前者には集団間階層の拡大を、後者には集団間階層の縮小を正当化するイデオロギーに触れさせると、外集団攻撃を行動レベルで示すことが明らかとなった。第7章では、一連の研究結果を総括し、集団間・集団内の地位環境が外集団卑下を生起させるプロセスについて最終的なモデルを提示した。最後に、本論文の理論的・実践的貢献、本論文の限界と発展可能性について考察した。

本論文は、内集団バイアスの中でも特に外集団卑下が生起するプロセスを解明した点で、非常に学術的価値の高い論文である。特に、外集団卑下の生起に集団内地位が関わっていることを明らかにしたことは、集団間現象が集団内の要因によって引き起こされることを示したという点で、従来集団間要因のみに注目しがちであった集団間葛藤研究に新たな視点を提供するものとして高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。